描かれた茶の湯

「日常茶飯事」と言われるように、茶は身近なものとして人々に親しまれてきました。室町時代には、寺社など人が集まる場で茶が振る舞われる一方、精神性を前面に押し出した「わび茶」が誕生し、茶室の中で亭主と客が一体となって、その空間・時間とともに茶を味わうようになります。天正15年(1587)、豊臣秀吉が貴賤や貧富を問わず参加を呼びかけた「北野大茶湯」では、800もの茶屋が設けられたと言い、茶の湯の流行をみることができます。男性主体に行われてきた茶道は、明治時代になると、身に付けるべき礼式の一つとして女性たちにも広まり、今日に至っています。本展では、主に江戸時代から明治時代にかけて様々な形式の茶の湯を描いた絵画をご紹介します。

前期・後期で作品の入れ替えと、絵巻の巻き替えを行います。

四条河原遊楽図巻(部分)　江戸時代　茶道資料館蔵
人でにぎわう四条河原町界隈に店を構え、茶を振る舞う様子。

春秋遊楽図屏風(右隻・部分)　江戸時代　後期展示
今日の茶会では、客の目の前で茶を点てるが、室町時代以前は、
茶は客をもてなす部屋とは別の場所で点てられ、運び出されることが多かった。

茶の湯絵巻(部分)　江戸時代　茶道資料館蔵
武家の男性三人が茶事に招かれ、待合、腰掛待合を経て、
席入、炭手前、中立ち、濃茶、道具拝見に至るまでの様子が描かれている。

賀茂競馬図巻(部分)　江戸時代　茶道資料館蔵
競べ馬の見物客にむけて、茶を振る舞う様子。茶道具を担いで運べる天秤棒のついた棚や、この棚を使って茶を出す行商人を「荷い茶屋」と呼ぶ。

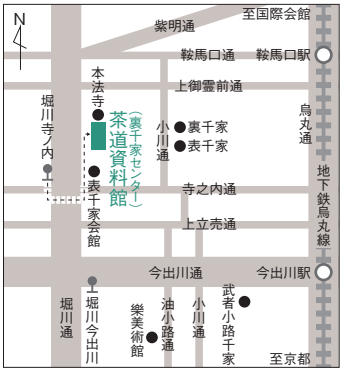
北野大茶湯図(部分)　浮田一蕙筆　江戸時代　茶道資料館蔵　前期展示
天正15年(1587)、豊臣秀吉が北野天満宮で行った大茶会をとりあげ、
境内のあちこちで茶席の催される様が描かれている。

〈その他の主な出品作品〉
・宇治茶摘図巻　海北友泉筆　江戸時代　今日庵文庫蔵
・北野献茶祭図巻　榊原文翠筆　明治時代　茶道資料館蔵

併設展　春のくらしと茶道具　場所:2階展示室
新春を寿ぎ、雛の節供を祝い、桜を愛でる春のくらしにちなんだ茶道具を展示いたします。平成29年の干支である酉(鳥)を集めたコーナーも設けます。

■茶道資料館メンバーシップ校(加入順)
京都造形芸術大学　立命館　光華女子学園　京都学園　京都大学　京都工芸繊維大学
同志社　ノートルダム女学院　京都教育大学　平安女学院　佛教教育学園佛教大学
京都文教学園　花園学園　京都精華大学　京都府立医科大学　京都府立大学
京都外国語大学　京都産業大学

第10回「茶道文化検定」は平成29年11月5日(日)に実施します。



交通案内

市バス
JR京都駅より⑨
阪急大宮駅→四条堀川より⑨⑫
いずれも堀川寺ノ内下車、徒歩3分
京阪出町柳駅より㉑㉖、堀川今出川下車
堀川通東側を北へ徒歩10分

地下鉄
烏丸線鞍馬口駅下車、西へ徒歩15分
東西線二条城前駅より市バス⑨⑫
堀川寺ノ内下車、徒歩3分

茶道資料館
Chado Research Center